

## 4. 経済成長 2：工業化と産業育成

\*工業化は開発とどのような関係にあり、今後どのような方向へ向かっていくか？

先進国の経験：イギリス産業革命→工業化→急速な発展（資本主義を是認する立場）

- 多くの途上国（多くの農業国）が工業化（Industrialization）を志す。
- MDG では、経済成長の目標値や工業化の数値目標を設定していない

### 【途上国工業化の 4 段階論】

第 1 段階：一次産品輸出による工業化（軽工業：食品加工・かんづめ・繊維）

主要途上国が 1950 年代に達成

第 2 段階：輸入代替工業化

ここで登場する輸入代替工業化(import substituting industrialization)戦略：保護主義的工業化路線→輸入に代わって国内幼稚産業 (Infant industry)を育成。

第 3 段階：輸出志向工業化 (EOI: Export Oriented Industrialization)

これまで加工度が低く付加価値 (Value added)が低かった一次産品輸出を、より複雑に加工された輸出製品によって置き換えつつ工業化する戦略

第 4 段階：「第二次産業革命」

### 【今日の途上国の工業化状況】

工業化をめぐる方針=国際貿易における途上国の位置づけ

貿易悲観論 (Trade pessimism)：先進諸国が製造業からより高度な知識集約的産業へと移行するに伴い途上国から輸出品を必要としなくなる→国内産業保護の立場

1. 途上国が輸出の主力とする一次産品にたいする世界的需要の伸びは限界
2. 一次産品 1 単位と交換しうる輸入品量を示す交易条件は悪化している
3. 先進国は途上国が得意とする輸出品にたいして国内産業を保護するため市場を閉ざす

貿易楽観論 (Trade optimism)：貿易自由化によって途上国も輸出の拡大と経済成長が可能であると主張→自由貿易論に立脚して輸出志向工業化を主張

→自由貿易は市場での競争を促すので、途上国が比較優位 (Comparative advantage)をもつ分野に特化することにより生産効率を向上（世界貿易機関：WTO が推進する世界貿易の自由化交渉も途上国を含めた世界全体の利益となる）。

### 【南南貿易と経済統合】

二者択一を超える方法：南南貿易の促進（途上国同士の貿易を促進し、外向きでありつつ、競争力のない産業を保護する要素を入れて工業化する方法

- 先進国の経済動向に左右されずに貿易が安定的に促進
- 途上国同士の連帯を促し、世界経済の中での政治的発言力が向上すると期待

### 【インフォーマル・セクター】 1970 年代に言葉が使われる

工場労働者や公務員や一定規模以上の商業などのフォーマル・セクターに従事している人々とは異なり、露天商や家政婦といった低賃金で小規模に活動している人々が途上国では多い。

→インフォーマル・セクターは雇用面では重要

### 【フェア・トレード】：Alternative Trade ともよばれる

生産者と消費者を直接つなぎ、中間コストを省くことにより正統な利益をできるだけ生産者に還元、途上国農業の生産改善を目指す。つなぎ役には非営利団体の非政府組織 NGO や非営利組織 NPO があたることが多い。